

第35回定期大会 大会宣言

大会宣言

私たちは、7月11日長野バスターミナル会館において、JR東労組長野地本第35回定期大会を開催し、向こう一年間の方針を満場一致で確認した。

新生JR東労組運動を前進させるためには、組合員に信賴される組織にしなくてはならない。そのためには誤魔化すことなく、わかりやすく、納得のいく運動をつくり上げなくてはならない。JR東労組は組織と組合員を守るため、いかなる組織破壊者や行為を許さず断固としてたたかっていく。

4月29日、国土交通省からJR東日本の重大時期に発生させた輸送障害に対して警告文章が出された。お客さまからの信賴を揺るがす重大な事態を厳肅に受け止めなくてはならない。東労組として安全問題は絶対に譲れない。労使共にお客さまの信賴を失墜させないように取り組んでいく。

会社から「変革2027」を踏まえたジョブローテーションなど新たな施策が矢継ぎ早に示された。職場では施策の詳しい内容が示されていないため、将来への不安を感じながら業務をしている仲間がたくさんいる。そうした不安を解決し、働く者が幸せと感ずることができ、仲間と共に雇用と利益、そして働き甲斐を最大限得られるように労働組合運動を全組合員で押し進めて行かなくてはならない。

沖縄では辺野古への新基地建設反対を公約に掲げた玉城デニー知事が誕生し、沖縄県民の平和を守るため奮闘している。今年2月に行われた辺野古埋め立てに対する県民投票では反対が総投票数の70%を超え民意はここでも示された。しかし、安倍政権は埋め立て工事を止めることなく新たな埋め立てを強行した。また、年金制度の破綻や老後の資金として夫婦二人で2000万円が必要とされる報告書の問題など、私たちが今後生活して行く上で重要なことでさえも蔑ろにされようとしている。来る7月21日に行われる参議院選挙によって政治を私たちの手に取り戻さなくてはならない。そして、安倍政権の暴走を止めるためにJR東労組と共闘する候補者の勝利を目指そう。

東労組運動の原点に立ち、全組合員参加の労働運動をつくり出そう。そして、職場活動を源泉とした運動を職場から創り出そう。新生JR東労組運動の発展と強化を通じて、組合員とその家族の幸せと労働条件の向上を実現していく。本部、全12地本の総団結の旗のもと全組合員で運動を押し進め難局を切り拓いていこう。

以上、宣言する。

2019年7月11日
東日本旅客鉄道労働組合
長野地方本部
第35回定期大会